

第65回大澤駅伝競走大会

2月1日、佐野市運動公園陸上競技場を発着・中継点とした周回コースで開催されました。

この大会は、3千メートル障害で日本記録を樹立しながら、太平洋戦争で戦死した大澤龍雄さん(佐野市牧町出身)を追悼するものとして、昭和26年に始まりました。今大会は42.195kmの一般と高校男子、21.0975kmの一般、中学男子、一般・高校女子、中学女子の6部門で、計141チーム約800人がタスキを繋ぎました。

一般男子の部には、平成27年の箱根駅伝総合第3位の東洋大学から3チームが出場し、箱根路で披露した力強い走りで、上位3位を独占しました。

なお結果は、市ホームページからご覧ください。



優勝した東洋大学A

佐野市交通安全市民大会

1月28日、佐野短期大学・体育館で佐野市交通安全市民大会が開催されました。

この大会は、昨年、佐野市内での交通事故死者数が10人に達し、交通死亡事故多発警報が3回発令されるなどの危機的な状況を受け、開催されたものです。

当日は、交通事故犠牲者に対する黙とうを行った後、市内小学生による交通安全作文の発表、とちぎ学生交通安全リーダーによる交通安全の誓いが行われ、参加者は交通安全の意識を新たにしました。

交通事故を防ぐには、一人ひとりの交通安全意識の高揚が大切です。車を運転するときはSEE(見る)、SLOW(減速する)、STOP(止まる)の3Sを心がけ、夜間外出するときには反射材を身に着けるなど、できることから始めましょう。



第8回さの子育て応援広場



2月13日、葛生あくどプラザで、市と佐野短期大学の地域連携事業「さの子育て応援広場」が開催されました。

この日は会場を訪れた市内16の保育園の園児286人を前に、佐野短期大学の学生たちが、自らが考えたストーリーに沿って、歌や踊りでいっぱいのステージを披露。子どもたちに大人気の「妖怪たいそう」の音楽がステージから流れると、会場が一体となって楽しそうに踊っていました。

佐野市と佐野短期大学は、地域福祉の向上と地域の活性化を目指し、平成18年に地域連携に関する協定を結び、さまざまな事業を共同して展開しています。

栃木県都市町対抗駅伝競走大会



1月25日、県庁～栃木市総合運動公園陸上競技場間を往復する10区間(60.02キロ)を舞台に、佐野市A・Bチームを含む計30チームが参加して行われました。

佐野市ではAチームが3年ぶりの往路優勝を果たすも、復路で引き離されて復路13位・総合5位の成績。また、Bチームは往路13位・復路9位・総合10位の成績でした。

両チームとも前回大会(10位、11位)を上回り、来年の大会に期待の持てる成績を上げました。



「広報さの」をお手伝いいただく 市民記者を募集します

「広報さの」では、この「まちの話題」のコーナーなどで、市民記者の皆さんからお寄せいただいた記事を随時掲載し、地域の身近な話題を紹介しています。

この度、平成27年度からの市民記者を募集しますので、ぜひご応募ください。

- ▶対象＝20歳以上の方 ▶定員＝15人まで
- ▶任期＝平成27年4月～29年3月まで
- ▶内容＝地域情報や話題の提供など
- ▶その他＝個人の宣伝、営利目的、政治的活動、その他不適当と判断されるものは掲載できません。また、報酬はありません
- 申込＝3月20日(金)までに、広報広聴係 ☎(20)3037へ

※住所・氏名・生年月日をお知らせください



地域の情報をお寄せ
ください

郷土芸能フェスティバル が開催



1月25日、道の駅どまんなかたぬまにおいて、「郷土芸能フェスティバル」が開催されました。

佐野市郷土芸能保存会の新春恒例の行事のひとつで、今年で25回目となりました。保存会に加盟している15の団体のうち、今年は、神楽や獅子舞、木遣、八木節、越名舟歌、牧歌舞伎などの9団体がそれぞれの伝統芸能の演目を披露しました。

このフェスティバルの開催は、次世代を担う後継者の育成にもつながっていて、今年は20代・30代の若い方や多くの子どもたちも出演し、会場を盛り上げていました。外の広場では、鳶伝統文化保存会の皆さんによる、はしご乗りが威勢よく披露され、力の入った演技に多くの観客が声援を送っていました。

貴重な郷土芸能を保存し、伝承していくには、地域の方々との絆が一番必要なことだそうですが、多くの方々に佐野の芸能を親しんでいただけるフェスティバルでした。(市民記者 山口万里子)

旗川小で「タグラグビー教室」が開催

2月12日、旗川小でタグラグビー教室が旗川小の4年生から6年生までの90人を対象として、佐野ラグビーフットボール協会の片山武夫理事長と石井勝尉さん(佐野高等学校教諭)が講師となり、開催されました。

佐野高等学校の4人のラグビー部員も参加し、児童たちは学年の隔てを超えて7人のチームを作り、基本的な動きなどを教わり、最後に試合を実施しました。

試合ではラグビー特有のルールに戸惑いながらも、各チームがパスをつなぎ、トライを狙いました。児童たちは試合を通して「チームで協力してボールをつなぐことの大切さ」を学びました。

また、教室の最後には「佐野のラグビーを応援する会」から旗川小にタグラグビーのセットが寄贈されました。

ラグビーは2019年に日本でワールドカップが開催。2022年には栃木国体があり、佐野市がラグビーの会場となる予定です。ワールドカップや国体に、佐野市出身の選手が出ることが期待されます。

